

岡山大学環境管理センターの発展を祈って

岡山大学長 大藤 眞

私は来年の6月に二期目の学長任期が満了となり、6年間の学長の任務を終えて退官することになります。

例えば、昭和56年から瀬戸内海に排水を排出する特定事業場は「総量規制」を受け、汚濁負荷量の常時計測を義務づけられることになり、急遽昭和56年12月に津島地区の排水基幹工事に着手し、昭和59年8月に全工程が完了しましたが、この法改正に対応するための津島地区の排水機構の調査をはじめたのは、昭和55年、私が医学部長として全学公害防止対策委員長をつとめていた頃でありました。従って、私はこの爾前調査から、この問題に直接関与しており、翌昭和56年6月学長就任と同時に前記の排水基幹工事を進め、さらにそれまでありました環境管理施設の有機系・無機系の処理部門に洗浄排水並びに生活排水部門を加えた新体制の環境管理センターをスタートせしめたのでありますが、本センターは着々として年々その内容、実績ともに隆盛をみてきております。私は昭和55年以来直接関与し、見守ってきました排水処理施設をもつ本学の環境管理センターの今日迄の歩みを回顧し、^{うたふ}転深かい感慨を禁じ得ないのであります。そしてこの6年間最初から今日迄施設長、センター長として終始格段の強い熱意をもって本学の環境管理のパイオニアとして活躍をつづけてこられた高橋照男教授の御功績に対し深甚の敬意と謝意を表してやまないであります。

本センターの使命は昨年の第7号にも記しました通り、廃液・排水の処理だけでなく、広く環境科学を軸とした環境保全に関する研究・教育を行うところにあります。しかし現在の学内措置の共同利用センターでは予算も十分でなく、人事面、管理面に不自由しており、今後上記の使命を十分に達成するためには、省令施設への発展が最も望ましいのであります。

現在も引きつづいて国の財政は極めて厳しい状態にありますが、第7号に書きましたように他に類をみないようなユニークな研究構想をもった環境管理センターとしての態勢を

整えて参りますと、元来が公共的要素の強いものでありますので、あるいは近い将来に省令化が叶えられるのではないかということは決して夢ではないと思われまゝす。

私がこのセンター報（前は施設報）に挨拶を書きますのも、これが最後になりましたが、本センターが今後本格的な成長をとげ、全国各大学の指導的立場の省令施設へと発展してゆかれることを心から切望し、また祈念してやみません。